

APRU マルチハザードプログラム 「キャンパスセーフティーワークショップ」を開催しました (2018/4/3-5)

テーマ：APRU, マルチハザードプログラム、キャンパスセーフティー、防災観光
場所：IRIDeS

2018年4月3-5日の3日間、APRU(環太平洋大学協会)と当研究所が主催する「災害に強い大学の構築」と題したワークショップが開催され、主にAPRU加盟大学から22名が参加しました。参加大学には、シドニー大学、インドネシア大学、バンドン工科大学、四川大学、清華大学、フィリピン大学、シンガポール国立大学、モンレー工科大学などが含まれています。

今回は2016年に続き、第2回目のキャンパスセーフティーに関するワークショップとなり、2016年と同様、さらなる大学における防災力の強化を目的として開催されました。当研究所から、今村文彦所長(災害リスク研究部門、寄附研究部門)が開会の言葉を述べ、丸谷浩明教授(人間・社会対応研究部門)が東北大学の事例、泉貴子准教授(地域・都市再生研究部門)がAPRUマルチハザードプログラムの活動と前回のワークショップの成果について発表を行いました。

ワークショップ初日には、東北大学を含め9つの大学がそれぞれの大学の防災対策について発表を行いました。その後グループワークの中で、これまでの災害対応の経験や防災力向上の過程で、改善が必要な点などを議論し、その結果、大学の防災力向上のためには不可欠である以下の最重要5項目が指摘されました。

- 1) リーダーシップ
- 2) 安全への投資
- 3) コミュニケーション戦略
- 4) 対策の実施・実行
- 5) 連携強化(自治体、企業、コミュニティ)

2日目には、大学の防災チェックリストの作成について議論し、チェックリストの以下6つのカテゴリーを選択しました。

1. 政策・ガバナンス
2. リスクマネジメント
3. インフラ整備
4. トレーニング・訓練・教育
5. 外的・心理的支援
6. 様々な事例の参照・学習

今後は、選択されたそれぞれのカテゴリーについて、指標項目を加え、チェックリストを完成させる予定です。チェックリストは、特にAPRU加盟大学が、最低限整備すべきと考えられる防災対策の基盤ができていのかどうかをチェックするために用いられます。

3日目には、被災地視察のため、旧大川小学校、女川駅、震災遺構仙台市立荒浜小学校を訪問しました。柴山明寛准教授(情報管理・社会連携部門)、泉貴子准教授(地域・都市再生計画部門)が参加し、被災地の被害や復興について説明を行いました。

文責：泉貴子(地域・都市再生研究部門)

次頁へつづく



今村所長



丸谷教授



泉准教授



グループ写真



グループ発表



グループ討議



巡検



巡検